

機関番号：62608
 研究種目：基盤研究(C)
 研究期間：2008～2010
 課題番号：20520041
 研究課題名(和文) 明治前期における日中文化往来の研究—筆談資料と旅行記の整理・研究を中心として
 研究課題名(英文) the study of culture relationship between Japan and China in the early time of Meiji era—mainly by straighten and study of the manuscript and travel journal
 研究代表者
 陳捷(CHEN JIE)
 国文学研究資料館・研究部・准教授
 研究者番号：40318580

研究成果の概要(和文)：

本研究は、明治前期に日中両国間を往来した人々が交わした筆談の資料や、旅行記などの基本史料を系統的に調査のうえ整理、分析を行ない、この時期の両国の人間同士の交流の実態や、日中間における文化往来の史実を考察するものである。研究期間中、日本・中国の各地の図書館、郷土資料館などで調査を行い、文献調査および現地調査の両面において大きな収穫があった。また、筆談資料と日本人の中国旅行記の収集と整理を行い、その時代背景と関係人物の研究を行ってきた。その一部は学会で発表し、また、論文として発表した。

研究成果の概要(英文)：

This study is about cultural exchange of Japan and China in early Meiji era. In this study, based on writing documents and traveling journals, we researched these basic documents and journals, deliberated reality of exchange and historical fact of Japanese and Chinese in that time. In the period of this study, we researched many libraries and museums in Japan and China, with much result in the research of documents and the spot investigations. We collected and edited writing documents and traveling journals, researched on background of the era and important persons in cultural exchange. We already released the part of the research result in congress and papers.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	1,300,000	390,000	1,690,000
2009年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2010年度	1,000,000	300,000	1,300,000
年度			
年度			
総計	3,400,000	1,020,000	4,420,000

研究分野：中国思想

科研費の分科・細目：哲学、中国哲学

キーワード：(1)近代日中文化交流、(2)日中文化往来、(3)旅行記、(4)筆談資料

1. 研究開始当初の背景

研究代表者は明治期の、日本に収蔵された漢籍貴重書が中国に流出した事情や、それをめぐる日中両国の学者の交流について関心

があり、明治十三年に来日して多量の古典貴重書を持ち帰った楊守敬などの中国人学者の日本における訪書活動や、明治維新後に中国古書市場に出回った大量の日本古書の流

出の商業ルートなどについて研究してきた。また、その背景を調べるうちに、清国駐日公使館の文化活動と、清国公使・公使館スタッフたちと日本人学者・文人たちとの交流にも関心を持つようになった。さらに、書物による交流の研究の延長として、近代における日中両国の出版分野における文化交流について研究を進め、中国近現代の古典研究に大きな影響を与えた人物である、古典籍の複製・出版事業に携わった黎庶昌、楊守敬、羅振玉、董康、傅增湘、張元濟などの中国人学者の活動とその研究・出版活動における日本人との交流について考察してきた。

これらの調査研究に当たっては、当時の両国知識人の筆談録、旅行記、日記、詩文唱和集、中国人が添削した日本人の漢詩文集、中国人が日本人の書画会や漢詩文社に出席した際の記録など、貴重な資料に触れる機会に恵まれた。当時の両国の文化交流の様子を生き生きと伝える重要な資料でありながら、今日まで学界の関心が薄かったことや、資料が漢文で記されたものが多いことなどのため、未整理のものが多く、研究者でさえ利用しにくいという現状について知ることができた。

明治期における日中文化交流史については、実藤恵秀氏の『中国人日本留学史』、『明治日中文化交流』や王曉秋氏の『近代日中文化交流史』などがある。しかしながら、一般的に言えば、日清戦争前の時期に関する研究は少なく、少数の人物以外には、両国間の文化往来の状況や、基本的な史実でさえも未だ十分には明らかにされていない。基本史料の整理に関しては、近年、当時の日本人や中国人の旅行記を収録した叢書『幕末明治中国見聞録集成』（ゆまに書房、1998年）や、『晚清東遊日記匯編』（上海古籍出版社、2004年）などが出版され、閲覧の便を与えてくれたが、いずれも学界で比較的知られているものや、出版されているものが主であり、出版されたものの伝本の少ないものや、稿本や写本の形のみで残されているものなどに関しては収録されていないものが多く、研究資料としては、まだ完備してはいないと言わざるを得ない。

また、当時両国の知識人の間で多く用いられていた筆談記録はまだいろいろな形で残されており、公になった出版物に見られない交流の実態を窺える貴重な資料であるが、纏まった整理・研究としては実藤恵秀による、上州高崎藩旧藩主の大河内輝声が保存していた「大河内文書」に関するもののみである。ただし、実藤恵秀『大河内文書—明治日中文化人の交遊』（東洋文庫 18、1964年）は、「大河内文書」の極一部分の意識であり、中国人学者の鄭子瑜と共同で編集した『黄遵憲与日本友人筆談遺稿』（早稲田大学東洋文学研究

会、1968）は、「大河内文書」から黄遵憲との筆談の部分抽出して翻刻したもので、「大河内文書」の全貌は未だに所蔵図書館においてマイクロフィルムによって閲覧することによってしか窺えないのである。以上の現状から分かるように、この時期の日中文化交流に関する研究は、史料の発掘・分析の両面においても未だなお不十分であり、その全貌を伺うには、系統的な調査と、基本史料の整理研究が必要と思われる。

2. 研究の目的

幕末より明治初期にかけて、日中両国間を往来する人の数は次第に増え、長崎に來航する中国人以外には、互いに接触する機会がほとんどなく、書物から想像するしかなかった江戸時代とは異なり、両国の人間同士が直接交流できるようになった。特に明治十年に清国駐日公使館が設置されてから、中国の文人・学者が初めて日本に長期にわたり滞在し、日本人と密接な交流を行うことができるようになり、外交官や民間の商人・旅行者のみではなく、両国間の文人・学者間の交流も一層拡大するようになった。この時期における両国間の文化往来はそれ以後の日中間の文化交流の基礎を築いたものであり、近代日中文化交流史上において重要な意義を持っている。また、日清戦争後のアジア進出を目指す雰囲気のもとでの日本人の中国訪問や、富国強兵などの現実的な目的をもつ中国人の日本視察・留学ブームとは異なった性格のものなのである。本研究においては、明治前期に日中両国間を往来した人々が交わした筆談の資料や、旅行記などの基本史料を系統的に調査のうえ整理、分析を行ない、この時期の両国の人間同士の交流の実態や、日中間における文化往来の史実を考察していきたい。

3. 研究の方法

本研究の具体的な計画と方法としては、まず日本・中国各地の図書館・資料館・博物館に所蔵される関連文献を系統的に調査し、関係者の子孫・親族に対するインタビュー及び関係する地方の現地調査と郷土資料の調査を行う。また、筆談録・旅行記・日記・書簡・回想録や新聞記事・漢詩文雑誌・外交文書などを網羅的に調べ、当時の両国の文化交流に携わっていた人々に関する出版物と歴史文書を調査し、書誌学的な文献調査と実証的な史実の研究とを進める。書物と歴史文書の他に、博物館や美術館、個人などに所蔵されている掛軸・画帳など書画資料も視野に入れて調査を行う。そして、既存の資料の再吟味と新資料の発見に基づき、当時両国を往来していた人物及び彼らの活動を考察し、当時様々なルートで行われていた両国間の文化的な交流の史実を探り、その実態を解明する。

4. 研究成果

本研究は、明治前期に日中両国間を往来した人々が交わした筆談の資料や、旅行記などの基本史料を系統的に調査のうえ整理、分析を行ない、この時期の両国の人間同士の交流の実態や、日中間における文化往来の史実を考察するものである。三年間にわたり、日本、中国の各地の図書館、郷土資料館などで調査を行い、文献資料の面も現地調査の面も大きな収穫があった。また、筆談資料と日本人の中国旅行記の収集と整理を行い、その時代背景と関係人物の研究を行ってきた。その一部は学会で発表し、また、論文としては発表した。

具体的には、日本国内および中国の北京・上海などを中心として、文献資料と現地調査とを行い、当時両国知識人の間で交わされた書簡、筆談資料や、当時の文化交流の史実が記録されている日記、新聞記事、回顧録などの資料を集め、新資料の発見を努めていた。そのうちの筆談資料と日本人の中国旅行記の収集し、校勘・標点・注釈および翻訳などの形で整理を行った。筆談資料については、『日本所蔵清末中日文人筆談書簡資料集』において整理、編纂をおこない、現在、公開出版のための作業を進めている。旅行記に関しては、『日本人中国遊記』シリーズ（中国・北京：中華書局）の編集・出版に携わり、その一部の校勘・標点・注釈および翻訳に参加した。資料の調査・収集と新資料の整理・出版など、研究基盤の構築のための基本文献の整理作業を行うと同時に、明治時代の日中文化往来の時代背景および人物間の関係の研究を行い、特に楊守敬・羅振玉・王韜などの中国人学者・ジャーナリスト、胡鉄梅などの日中間を往来した書画家たちの活動、宮島誠一郎・岸田吟香など、日本人の日中間における文化・商業活動との関わり、さらに、書物・書画などの「もの」の交流の裏にある人と人との交流などについて考察を行ってきた。新資料の発見と考訂を通して、新たな史実を浮き彫りすることができたが、その一部は日本・中国大陸および台湾での学会において発表し、また毎年、論文をまとめ、日本・中国の雑誌・論文集などに発表してきた。

本研究と関係する学会発表としては、2008年9月21日に中国の北京大学信息管理学系で開かれた学会である「伝統文化の連続性：北京伝統景観の保存と古都開発を中心として」における口頭発表「文化の生産と集散の場：琉璃廠書店街と文化の伝播」は、琉璃廠書店街の歴史を遡り、日中文化交流史における琉璃廠書店街という文化空間の役割を分析した。2009年9月10日～11日に台湾中央研究院文哲研究所で開かれた「四海斯文自一家：東亞使節文化書写」国際学術研討会においては、

「關於宮島誠一郎文書中的筆談資料」という題目で研究発表を行い、宮島誠一郎文書の中の筆談資料の内容、特徴、価値および整理・利用の際に注意すべき問題点について私見を述べた。同年11月、中国揚州の彫版印刷博物館にて開かれた研討会では、『古逸叢書』の印刷について」というテーマで発表し、来日した中国人学者の出版活動と、日本人学者・職人たちの協力とに関する新資料に基づいて考察を行った。同年12月24日～25日に中国大連図書館で開かれた、「首届羅振玉書法書学国際学術研討会」においては、「從羅振玉書札看日藏漢籍刊印事業中羅振玉与德富蘇峰的交往」とのテーマで発表を行い、羅振玉と德富蘇峰との日本所蔵の漢籍刊印事業をめぐる交流を探ってみた。2010年10月30日～31日に関西大学東アジア文化交渉学教育研究基地で行われた「印刷出版与知識環流—十六世紀以後的東亞」国際学術研討会においては、「十九世紀七、八十年代中国書畫家的日本遊歷」とのテーマで発表し、十九世紀後半の中国人書畫家の日本遊歷ブームという文化現象について考察を行った。これらの口頭発表の一部は学術論文としてまとめられているが、すでに発表したものに関しては、5「主な発表論文等」を御参照いただきたい。なお、本研究の研究成果の一部を含め、近年発表した近代日中文化交流に関する論文のうち、特に人物の往来、古典籍の流転といった内容と関係のあるものを選択して、『人物往来与書籍流転—近代中日文化交渉叢考』という題目の論文集を、中国北京の中華書局から出版することが決定しており、すでに第一回の校正刷りが出ている段階である。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計8件）

- ①. 陳捷、「楊守敬与羅振玉的交友—讀楊守敬致羅振玉書札」、張哲俊編『嚴紹璽學術研究』、pp. 467-481、北京大学出版社、2010年8月、査読無
- ②. 陳捷、「被人遺忘的日本人八戸弘光—十九世紀六〇年代中日民間往来的一例」、『国际漢学研究通訊』、第2号、北京大学出版社、2010年、査読有
- ③. 陳捷、「關於清駐日公使館借鈔日本足利學校藏《論語義疏》古鈔本的交涉」、『版本目錄學刊』、第2輯、国家図書館出版社、2010年、pp. 375-408、査読有
- ④. 陳捷、「幕末における日中民間交流の一例—知られざる日本人八戸弘光について」、『中国哲学研究』、第24号、pp. 179-211、2009年11月、査読有
- ⑤. 陳捷、「關於『羅振玉手札』所収羅振玉

致楊守敬書札的考察』、『文献』、2009 年第 3 期、pp. 171-181、2009 年 10 月、査読有

⑥. 陳捷、「一八七〇—八〇年代における中国書画家の日本遊歴について」、『中国—社会と文化』、第 24 号、pp. 161-178、2009 年 7 月、査読有

⑦. 陳捷、「日本における宋版との出会い」、高田時雄編『漢字文化三千年』、pp. 343-365、臨川書店、2009 年 7 月、査読無

⑧. 陳捷、「黄遵憲与日本漢方医学保存運動」、『中国典籍与文化』、2009 年第 2 期(総 69 期)、pp. 35-44、2009 年 4 月、査読有

6. 研究組織

(1) 研究代表者

陳捷 (CHEN JIE)

国文学研究資料館・研究部 准教授

研究者番号：40318580

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：